

平成 28 年度第 1 回奈良市プロポーザル採否審査会会議録			
開催日時	平成 28 年 5 月 9 日 (月) 午前 10 時 30 分から 11 時 10 分まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟 5 階 庁議室		
出席者	委員長	向井副市長	
	委員	萬谷法令遵守監察監 西谷会計契約部長 外良市民生活部長 喜多都市整備部長 山本建設部長 北谷教育総務部長	
	事務局	会計契約部次長、会計契約部参事契約課長事務取扱、 契約課主任	
欠席者	委員	津山副市長、南環境部長、長岡観光経済部長	
開催形態	公開 (傍聴人 0 人)	担当課	保健福祉部 福祉政策課
議題 又は 案件	1 地域包括支援センター業務委託について		
決定又は 取り纏め 事項	1 採用		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
向井副市長	これまでの選定方法はどのようなものでしたか。		
早瀬課長	これまで 10 年、地域包括支援センターの前の在宅介護支援センターを委託していた法人に対して、随意契約で委託していますが、包括委託を希望する法人が多数出てきたこともあり、公平性・中立性の確保という観点から、公募型プロポーザルを行いたいと考えております。		
向井副市長	公平性だけでプロポーザルを行うのかということですが、プロポーザルにして何を提案してもらうのですか。		
早瀬課長	地域包括支援センターは、地域に根ざしたものであるもので、一定の最低基準のしてもらうことをこちらが明確に示して、地域の特性をいかした、地域の住民を巻き込んだシステムを作っていくような提案して欲しいと考えています。		
外良部長	地域に根ざしたと言うが、大きな団体が 13 箇所すべて対応可能であるというプレゼンテーションをしたら、一者で行うことも可能ですか。		
永松主幹	複数のエントリーも含め、現在検討中です。 現状は、当初一地区一法人でやっていたが、契約期間終了目前で辞退した業者があったので、その際は公募をしたのが、一者しかエントリーがなく、現在は 11 箇所を 10 法人が行っています。		
西谷部長	プロポーザルで、地域の特性を団体がどのように考えていくかというときに、それを採点する人がそこでどのように判断するのだが、地域の特性		

をどのように把握しているかの判断が難しい。それを十何件見ることが可能なのかということも懸念される。相手から、金額的なものを出してもらうのか。

神田参事 プロポーザルを希望しているということで、決められた金額の中でどのようなものを提案できるかということになります。

向井副市長 実際、13 箇所、一箇所ずつ提案をしていくわけだが、実際は感覚としてたくさん応募してくるのですか。

永松主幹 実際に新しくやりたいという具体的な話は何箇所か来ています。また、今やっている業者は継続して行いたいと基本的には言っています。

向井副市長 ここでプロポーザルをなぜ採用したのかと言われたときに、包括支援センターの利用者にメリットがあるというのが、一番説得力がある。このプロポーザルを採用することによって、利用している人にとってどれだけのメリットがあるかという話しである。

今までのやり方を変えるので、反対する人から理由を求められた際に、それを上回る、利用者にとっての利点が言えなくてはならない。

外良部長 地域の特性を生かしたプロポーザルの審査ならば、こちら側も地域の特性を把握した上で基準は作られるということになると思います。

大きな団体がきたとしても、提案に対して突っ込みを入れられるような、調査がきっちりされないとプロポーザルの意味がない。プロポーザルで行う場合、プレゼンテーションのうまい業者に決定しがちでしょう。そのへんの条件設定はきちんとできていますか。

永松主幹 奈良市内で活動実績がある法人にはなりますが、地区特性というのもきっちり向こうからも、話をしてもらってこちらが把握している地区特性に合うものかも確認します。

向井副市長 今利用している人たちが、今の支援センターにどのような問題を感じているのか、どのような不満・要望等を持っているのか、実際掴んでいたらやりやすのではないだろうか。

早瀬課長 10 法人が 10 法人、必ず均一的なサービス、事業を展開しているわけではないので、それについてはこちらで把握しています。

喜多部長 地域の特性を重視したのであれば、地区によって考え方が変わるので審査基準というのを変えていかなきゃならない恐れがある。

外良部長 地域特性を前に出したら 13 箇所をまとめてやるということに無理があるのかもしれない。

永松主幹 今考えているのは地域ごとにプレゼンテーションをしてもらい、点数を同じ基準で付け、点数の高いところをとるのですが。

西谷部長 他の市はどうなっているのですか。

永松主幹 去年いくつか聞いたところでは、基準は均一でした。

向井副市長 地域の特性というのは、言葉としてよく使われるが、そこがあまり強調されると、本当にどことどこがどう違うのかと言われたらそこは難しい。その地域の特性を生かした地域包括支援センターというのは少しイメー

永松主幹	<p>ジがもう一つ分からない。具体的に何を提案してもらいたいのですか。</p> <p>例えば、「地域で自分からSOSを出せない方を見守るための仕組み作りとして、こういう団体と連携を取って、こんな仕組み作りを5年間かけてこういう風な計画でやっていきます」とか、よりよくそれをするために、何か具体的な提案をしてもらいたい。</p>
山本部長	今予定されている審査委員はどんな方ですか。
永松主幹	今考えているのは、学識経験者等を考えています。
向井副市長	<p>地域の特性と言ってしまうと、それぞれに色々変わった特性があると見えるけれども、地域の実情をきっちり把握して、その地域の各関係の各団体ともきっちり連携をしてやっていけると。それと独自の提案というのがあればいいのかなと感じます。</p>
早瀬課長	<p>今、実際10法人に委託しているが、同じ地域でも新たに出てくる業者もあると思うので、もう一度再検討、審査して、よりよい方を選んでいくという形で、今までそういった住民の方の不満についても、変えていけるのではないかと考えている。</p>
向井副市長	<p>それが、広く言えば市民のためになりますよと、更により良いものになりますとそのような説明なのですね。色々な提案をもらって、より良い業者が行うという意味ではプロポーザルで良いのではないかと思います。その評価の内容とかについてはその委員も含めて、今出た質問とか提案とかも含めて、つめてもらったら良いと思うがどうですか。</p>
神田参事	<p>今、指摘というか意見のあった目的のところとか、地域の特性とかを、また検討してもらおうということで。</p>
向井副市長 委員	<p>それでは、プロポーザル方式で実施ということによろしいですか。</p> <p>はい。</p>
資 料	<p>【資料1】平成28年度 第1回奈良市プロポーザル方式採否審査会調書 案件番号1</p> <p>【資料2】「地域包括支援センター業務委託」に係る公募型プロポーザル方式実施要項</p>